

「雷別ドングリ倶楽部」これまでの活動（平成19年度）

○平成19年7月1日（日）：「雷別自然再生学習会」に参加



雷別自然再生事業地で行われた「雷別自然再生学習会」に参加しました。6月30日に実施する予定が雨で順延となったことから23名の参加予定者が11名の参加（うちドングリ倶楽部6名）と少なくはなりましたが、心地よいさわやかな天気の中、釧路市、釧路町、標茶町からの参加者の皆さんと楽しく実施しました。



初めに、雷別森林再生事業の概要と試行実験区での取り組みが説明された。試行実験区の防鹿柵の外では、昨年の秋に植栽したミズナラが既にエゾシカに被食されている様子を見て、広葉樹の森林づくりの大変さを実感しました。



その後、採取したハルニレの種を発泡スチロールで作った苗床に播種したり、センターで育てたハルニレコンテナ苗の植栽と植栽した苗木をエゾシカから防護するためにヘキサチューブを取り付けたりなどの作業を体験しました。



午後は、目標としている天然林の姿が見られる近くの森林を散策しました。散策の中では森林土壌を観察する穴を見て、森林の水源かん養機能は森林土壌が主役であることをあらためて知ることができました。樹木観察と併せて森林の効用等についても勉強しながらゆっくり散策を楽しみ、午前中の作業の疲れを癒しました。



○平成19年7月21日（土）：初会合と移植用のトレイに培養土詰めを実施



会員11名のうち8名が出席して、会の初めての会合を開いて活動内容等について話し合いました。最初に、会の名称を「ドングリ倶楽部」とすることにし、続いてこれからの活動内容について意見を出し合い、雷別の自然再生事業の取り組みにふさわしい活動を実施していくことにしました。



19年度の活動計画は、①ふれあいセンターが一般市民を公募して行う「雷別自然再生学習会」に春季開催（既に7月1日に実施）、秋季開催（10月予定）に参加する。②「ドングリ教室」（森林教室）を2月に実施し冬芽と樹皮の観察を行う。③紅葉や草木の開花に併せて「雷別樹木・草花調査」を何回か企画する。④「苗木育成」と「会員勧誘」を通年にわたり取り組むなどしました。



活動等を話し合った後に、7月1日の「雷別自然再生学習会」で苗床に播種した雷別産ハルニレの幼苗をコンテナ苗木育成用のトレイに移植する予定でしたが、このところの低温続きでやっと芽が出たばかりでしたので、移植の準備のためにトレイに培養土を詰める作業を実施しました。幼苗は1週間も経てば植え替えできると思いますが、移植した苗木は、一旦、森林管理署の敷地で1カ月ほど養生し、会員宅の庭先



などで育成していくことにしました。大きく育った苗は3年後に、会員や市民の手で雷別に里帰りする予定です。

○平成19年8月3日（金）：ハルニレの幼苗をトレイに移植



会員7名が出席して、コンテナ育成用のトレイに、ハルニレの幼苗を移植しました。

発泡スチロールの育苗床から4枚葉になった幼苗の根を傷めないように慎重に掘り出し、マルチキャビティコンテナに移植しました。1つのコンテナは24本植えですので、9コンテナ216本を仕上げました。作業中は「丁寧にすばやく」の合い言葉で休憩もせずに1時間ほどで終わりましたが、立ち上がった皆さんからは「うーん！疲れた。」の言葉がもれました。最後に元気に育つようにたっぷりの水をかけ終了しました。



!!!このコンテナ苗は、地面から10cm以上離して設置することにより、エア・プルーニング（空気根切り）を利用して、根が空気層に達した時に根端を機械的に剪定したのと同様に伸長を停止すること。また、そのことにより上方根元から次々に分枝を発生し、根は育成孔に垂直に配置されたリブ（肋骨）の働きにより回転せずに真っ直ぐ底に伸びてから伸長を停止することを繰り返しながら、理想の根系を形成するそうです。!!!



【右の写真は、移植後約1カ月（9月13日）のハルニレです。元気に夏を乗り切りました。】



○平成19年9月1日（土）：樹木・草花調査を実施

会員7名が参加して、「雷別樹木・草花調査」を実施しました。

標茶町雷別に集合し、まず、シラルトロエトロ川と林道が交差する地点で沢の様子や植生等を観察し、自然再生事業地とシラルトロ沼、シラルトロエトロ川の位置関係を確認しました。



次に自然再生事業地近くに戻り、初秋に咲く花を中心として草花を観察・記録しました。デジカメ、花の図鑑、観察野帳を持ち2班に分かれて実施しました。次々と見つかる足元の小さな草花と図鑑を照らし合わせて調べていたら、アツという間に時間が過ぎて予定していた区域を終了できずにお弁当の時間になってしまいました。今後も草花調査にじっくり取り組んで、倶楽部手作りの「雷別の草花図鑑」を完成させたいと思っています。



午後からは、22年度から植付を開始する広葉樹の苗木育成のために必要な雷別産広葉樹種子の実り具合を調べました。ミズナラ、カシワ、ヤチダモ、シラカバ、キハダ、イタヤカエデを調査しましたが、まだ実が色付いておらず、しかも葉っぱが茂っているため見分けづらく、大変苦労をしました。一般市民を対象として10月6日（土）に開催する「雷別自然再生学習会」では、今回の調査結果を生かして調査木のタネの採取と播種を予定しています。



まだ残暑はありましたがお天気にも恵まれ、ヤマハギの花が秋の訪れを知らせる雷別の森で倶楽部の有意義な活動を実施することができました。



○平成19年10月6日(土):秋の「雷別自然再生学習会」に参加



今回の活動は10月6日(土)に行われた秋の「雷別自然再生学習会」への参加です。

ドングリ倶楽部4名と一般応募された12名で実施されました。秋の行事が目白押しとなっていて、倶楽部会員も別の行事への参加を早い時期から予定していた方もあり、出席会員は少なくなりましたが、これまでの経験を生かし色々な体験作業の場面で一般参加者をリードすることができました。



広葉樹のタネ採り作業では、9月1日の活動で実り具合を調査していたミズナラやカシワのタネ等を採取しました。キハダとヤチダモのタネ採取ではグラスファイバー製の伸縮する特殊な鎌を使いましたが、鎌の重みで伸縮する棒が釣竿のようになり、なかなか目標のタネを捉える事ができないで苦労しました。



タネの播種作業では、採取したタネを発泡スチロールの箱に苗床を作ってタネ播きをしました。春の学習会ではハルニレの播種を体験しましたが、今回はミズナラ、ヤチダモ、シラカンバの播種でした。タネの大きさにより播き方に違いがあることがわかりました。



春の学習会で播いて育ったハルニレの幼苗をマルチキャビティコンテナに移植する作業では、8月3日に移植を実施した経験を生かして、一般参加者をリードすることができました。皆さんコンテナへの移植作業を子供のようにワイワイ楽しんでやっているようでした。



最後にふれあいセンターで育てたマルチキャビティコンテナ苗木のヤチダモとハルニレ18本を植樹し、エゾシカ食害防護のためにヘキサチューブを設置しましたが、この作業も会員は体験していて皆さんをリードすることができました。



お昼休みには、近くで鈴なりに生っていた山ブドウ狩りも楽しむことができ、爽やかな秋空の森の中で心身のリフレッシュをすることができました。

帰りのバスの中で、一般参加者に「雷別ドングリ倶楽部」への加入をしていただき、継続した活動への参加を呼びかけました。



○平成19年10月25日(木):ミズナラ等の播種を実施



10月6日に実施した自然再生学習会では、秋に採取したミズナラ、ヤチダモ、シラカンバのタネを発泡スチロールの苗床に播きました。今回は、イタヤカエデとキハダのタネを発泡スチロールの苗床に播き、ミズナラをマルチキャビティコンテナに直播きました。また、春に採取して保存しておいたハルニレも実験として秋播きしてみました。出席者は2名でしたが、予定していた作業を完了することができました。





ドングリ倶楽部が中心となって苗木の育成に取り組んでいますが、来春、播種した広葉樹のタネが期待しているように芽を出し、雷別自然再生事業における本格的な苗木生産の目途がたてばと願っています。

ふれあいセンターでは、一般の市民の方が自宅で苗木を育てることを通して雷別での自然再生事業のお手伝いをしてもらい、「お庭で苗木育成」を実施することになっています。その最初としてドングリ倶楽部会員6名が預かることになりました。今年

はコンテナに移植したハルニレの苗木が少なく、会員と中茶安別小中学校に預ける分しか用意できませんでしたが、来年度以降は標茶町をはじめ雷別近郊の市町村の方々にお手伝いしてもらおうよう取り組んでいきます。

当日、会員のお二人がセンター所長から苗木を受け取り自宅に持ち帰ってもらいました。3年間の水やりや追肥等の管理についてマニュアルを作成してお渡ししましたが、一緒に就いたばかりの苗木育成であり会員の皆さんと試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思っています。



○平成20年2月23日(土)：どんぐり教室を実施

2月23日(土)に7名が出席して、「どんぐり教室」を実施しました。

最初に、今年度最後の活動となることから、初年度の活動を振り返りながら、20年度の活動内容について打合せを行いました。今年度は、7月21日に倶楽部を立ち上げ、雷別自然再生学習会への2回の参加、雷別産広葉樹の種蒔きや苗木の移植、雷別の草花・広葉樹種子の結実調査などを実施しました。会員の中からは、「雷別での冬の活動も企画できないか」、「倶楽部の活動を子ども達に伝えていけるような展開はできないか」などの意見が出され、来年度の活動を企画する中で検討していきたいと思っています。

次に、雷別に自生するミズナラやカシワ等の広葉樹とサルナシやミヤマタタビ等のつる性木本の冬芽の勉強会を実施しました。初めに冬芽についての基本的な用語を学習し、続いて、用意した冬芽の種類を検索表に基づいて同定しました。会員は、日頃から森林にはよく出かけていますが、じっくりと冬芽を見るのも冬芽で樹種を同定するのも初めてで、検索表と見比べながら夢中になって取り組んでいました。

最後に、樹皮フロッタージュを体験してもらいました。フロッタージュとは、紙を岩や木等の自然物の表面に当て、上から鉛筆・木炭などでこすって絵画的効果を得るものです。上手にできた紋様を見ながら、「絵はがきに利用してみたい」「葉っぱのフロッタージュもやってみましょう」等の意見が出ていました。

来年度も雷別の自然再生事業において、同倶楽部が市民参加の中心となって活躍して頂くようお願いしてドングリ教室を終えました。



動物の顔やお面のようなオニグルミとキハダ



マカンバ特有の皮目模様が浮き出てきました